

医療・金融業界を支える大田区の町工場

真空ポンプの シエア随一のブランドカ

三津海製作所



渡邊盛史専務

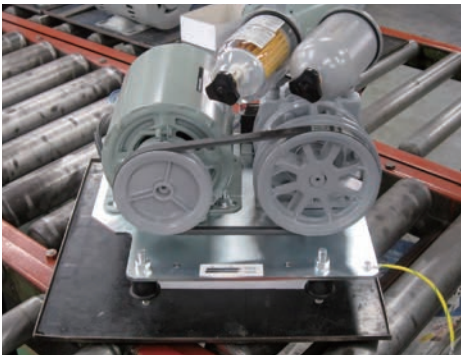
るとのクレームを受け、一時は回収・修理に追われるという苦境も経験した。しかし、「他がやらないことをやる」という情熱と確かな技術力に支えられ、取引先など周囲の助力で危機を乗り越えてきた。今では、国内外でシエア60%を占めている。

この真空ポンプは形を変えて活躍しており、医療分野では手術中の患者の息から麻酔ガスが漏れ出さないようにコントロールする役割を果たしている。同製品は実に国内シエア100%を誇り、医療業界を支えている。真空ポンプを小型化することで、歯科医による介護施設などの訪問治療といった用途の幅が一層広がり、医療・介護・IT分野をはじめ今後もさらなる飛躍が期待されている。

後継者となる渡邊盛史専務は、「開発型企業をめざし、大田区の中小企業の技術力を世界にアピールしていきたい」と力強く意気込みを語ってくれた。

大田区内に2カ所の工場をもつ三津海製作所(大田区東蒲田、渡邊幸一社長、03・3736・4341、<http://www.mitsuvac.co.jp>)は、真空ポンプやコンプレッサーの開発、製造を行っている。さまざまな顧客の要望に応えるべく、設計図のないところから試作を重ね、組み立てまで手作業で製品をつくり上げていく。

銀行のATMや自動紙幣計算機に使用されている同社の真空ポンプは、瞬時に真空状態をつくり微細な空気圧を制御して1枚ずつ高速で吸い寄せ、紙幣を正確に数えることができる。昭和40年頃に主流だった給油式の真空ポンプでは紙幣が油で汚れてしまう難点があり、約2年かけて炭素繊維のカーボンを使用した無給油式真空ポンプを開発した。当時の大蔵省(現財務省)や銀行に導入され量産化に成功したが、そのカーボン部分の形状が湿度によって伸縮し機械が停止す



自動紙幣計算機に採用されている真空ポンプ